

「地域福祉に関する団体アンケート調査」

1. 調査の概要

- (1) 目的 市内の福祉団体を対象に、団体の状況や地域の活動等を把握し、第3次桐生市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定の基礎資料とすることを目的とする。
- (2) 実施対象 桐生市ボランティアセンター登録団体92団体
- (3) 調査方法 ボランティア保険加入申請書送付時に同封市及び社会福祉協議会ホームページに掲載
- (4) 実施期間 平成31年2月～4月

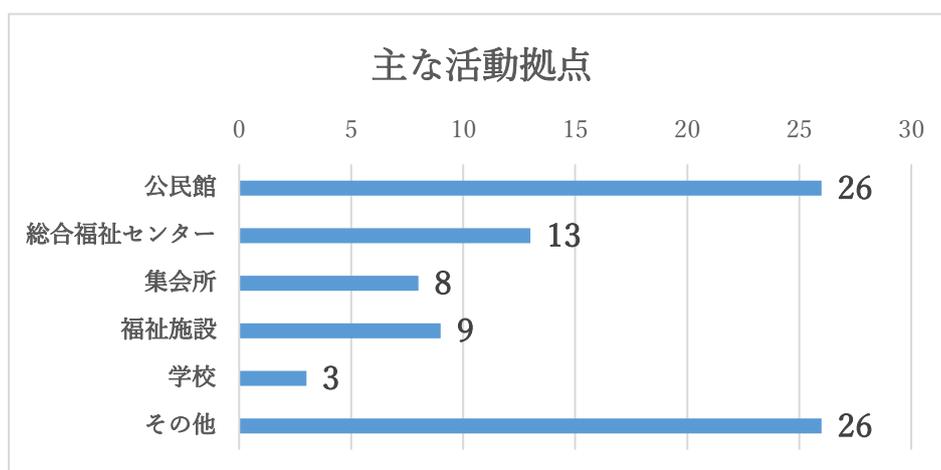
2 回収状況

依頼数92団体に対して、回答数54団体（回収率 58.7%）

3 調査内容

- (1) 団体について【基本調査】
- (2) 団体の活動について【7問】
- (3) 地域について【5問】

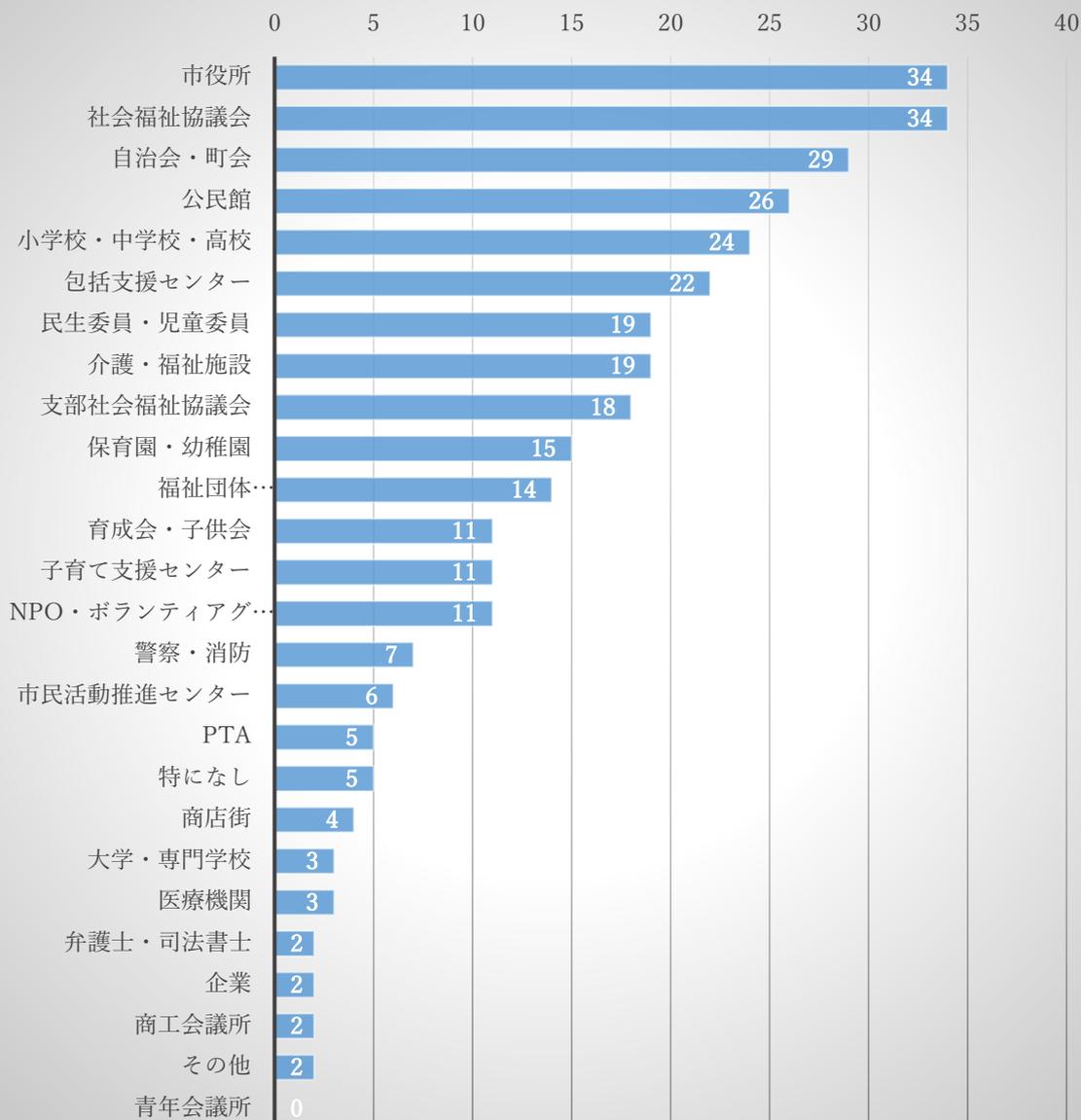
4 分析結果



その他の回答では、各団体の施設や公共施設などが多かった。
各団体の活動拠点としては、公的な施設が主になっている。

問1

活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係

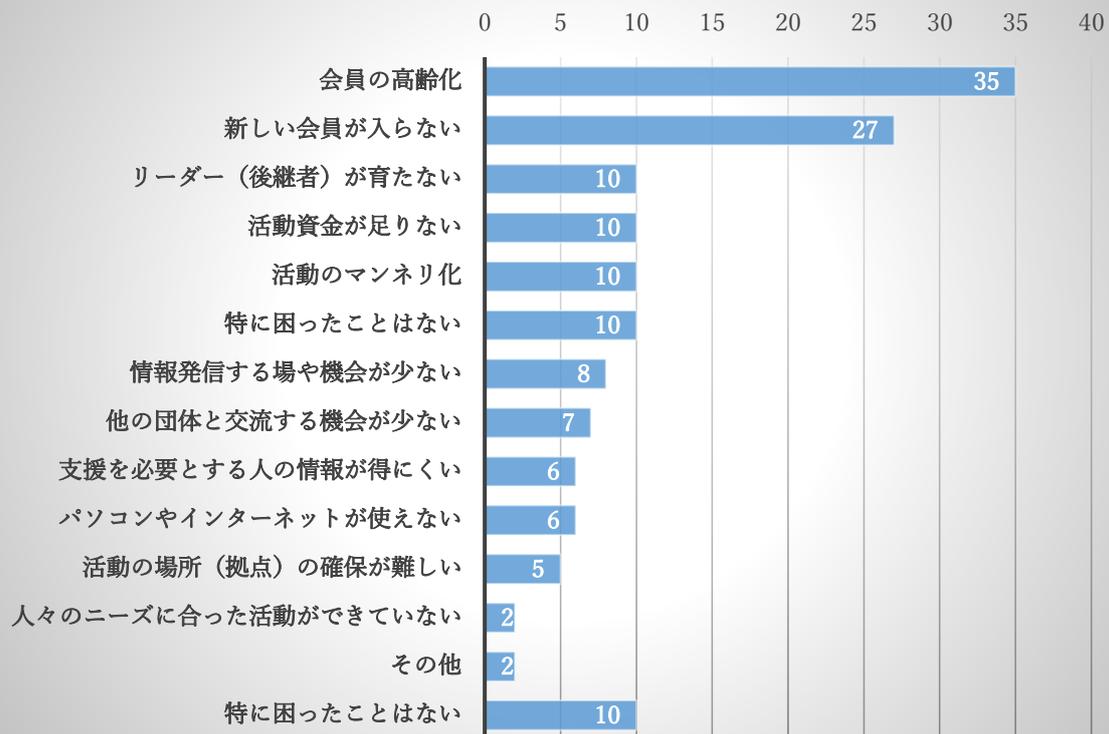


地域にある団体や機関との連携については、公的なものが多いのに対して、商店や企業などは低い傾向がみられた。

問2 団体・機関等とどのような関係がありますか？

情報提供や情報収集という関係が最も多く見られ、次に、イベントや行事での連携、交流、人的支援、場所の提供という事項が多く回答された。

問3 活動を行う上で困っていること



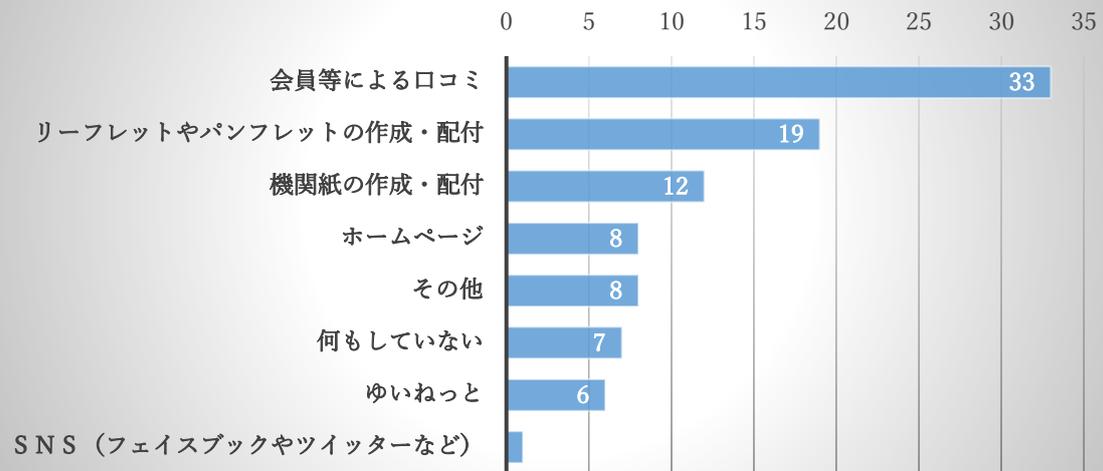
「活動を行う上で困っていること」については、会員の高齢化が最も多く、また新規会員不足、後継者不足も多くあげられた。どの団体も、人の不足が深刻な問題となっている。また、情報発信や、情報収集、パソコンの利用などについても課題が出された。

問4 困っていることを解決するためには何が必要だと感じますか？

複数あった回答は下記のとおり

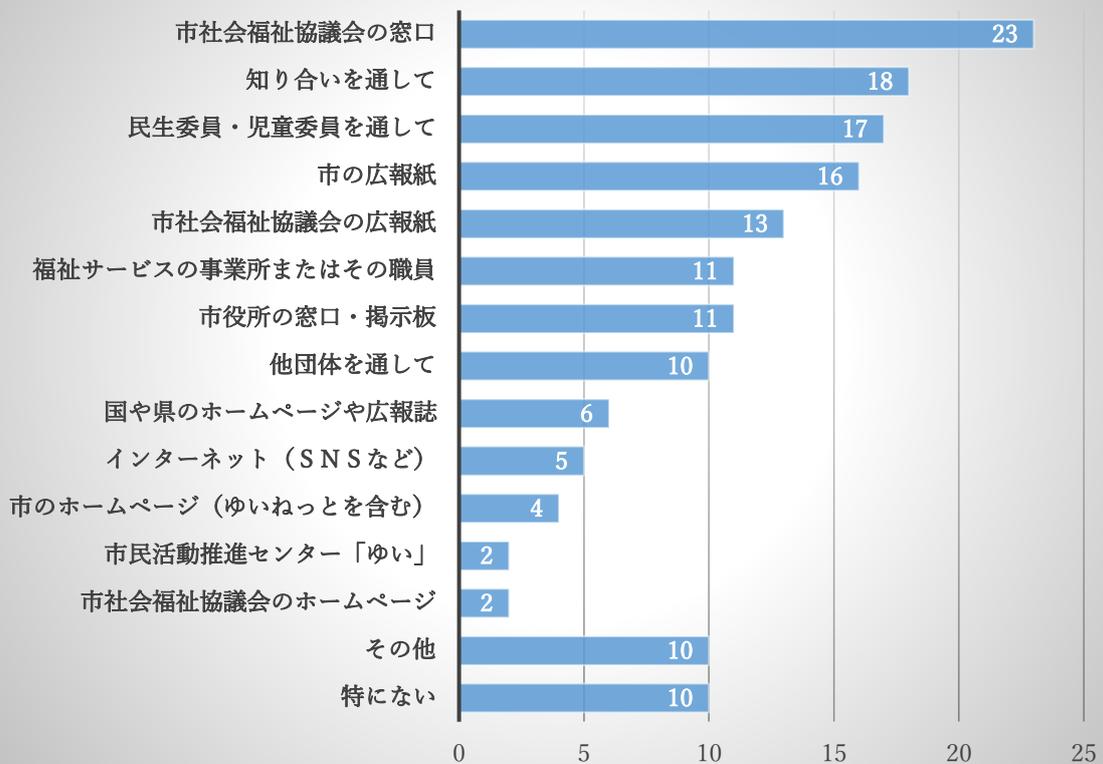
- ・活動内容の PR（若年層への）
- ・広報活動をする資金と方法（広報・新聞など）
- ・パソコンやインターネットを利用している若い世代の方の入会
- ・新規会員の勧誘、育成
- ・楽しい企画や行事を行う
- ・区や町会、友人、知人に声をかけ募集を働きかける
- ・活動内容について広く周知して、共感してもらう
- ・地域の人材の情報収集を行う
- ・周知活動の強化

問5 団体の活動情報をどのように発信しているか



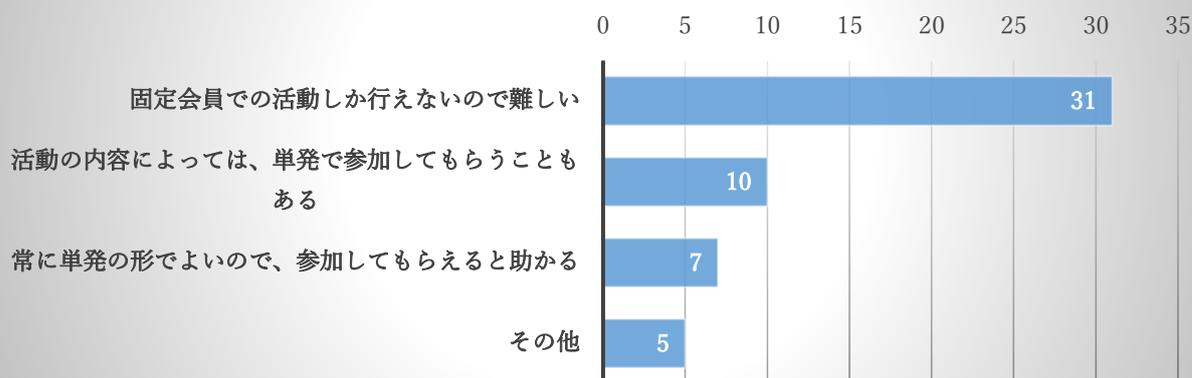
団体の情報発信方法については、会員等による口コミが最も多く、次にリーフレットや機関紙作成などの紙媒体であった。ホームページやSNSなどのインターネット関係で発信している団体は少ない。

問6 団体の活動に必要な情報の入手先



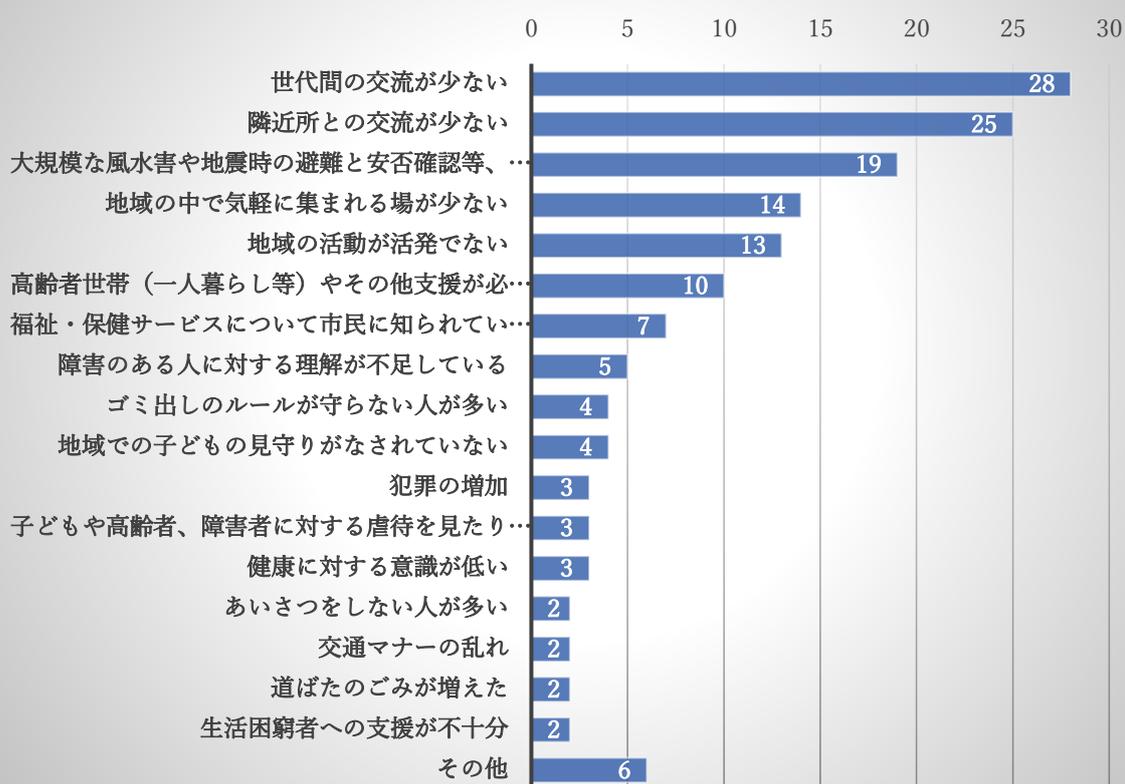
情報の入手先としては、窓口、人を介して、広報紙の3項目が多くみられる。インターネット関係は低い割合であった。

問7 市民の方が気軽に活動に参加できるように、 単発で参加することは考えられるか



保険等の関係もあり、単発で参加することは難しいことの方が多い。

問8 活動を通じて感じる地域の問題点や課題は

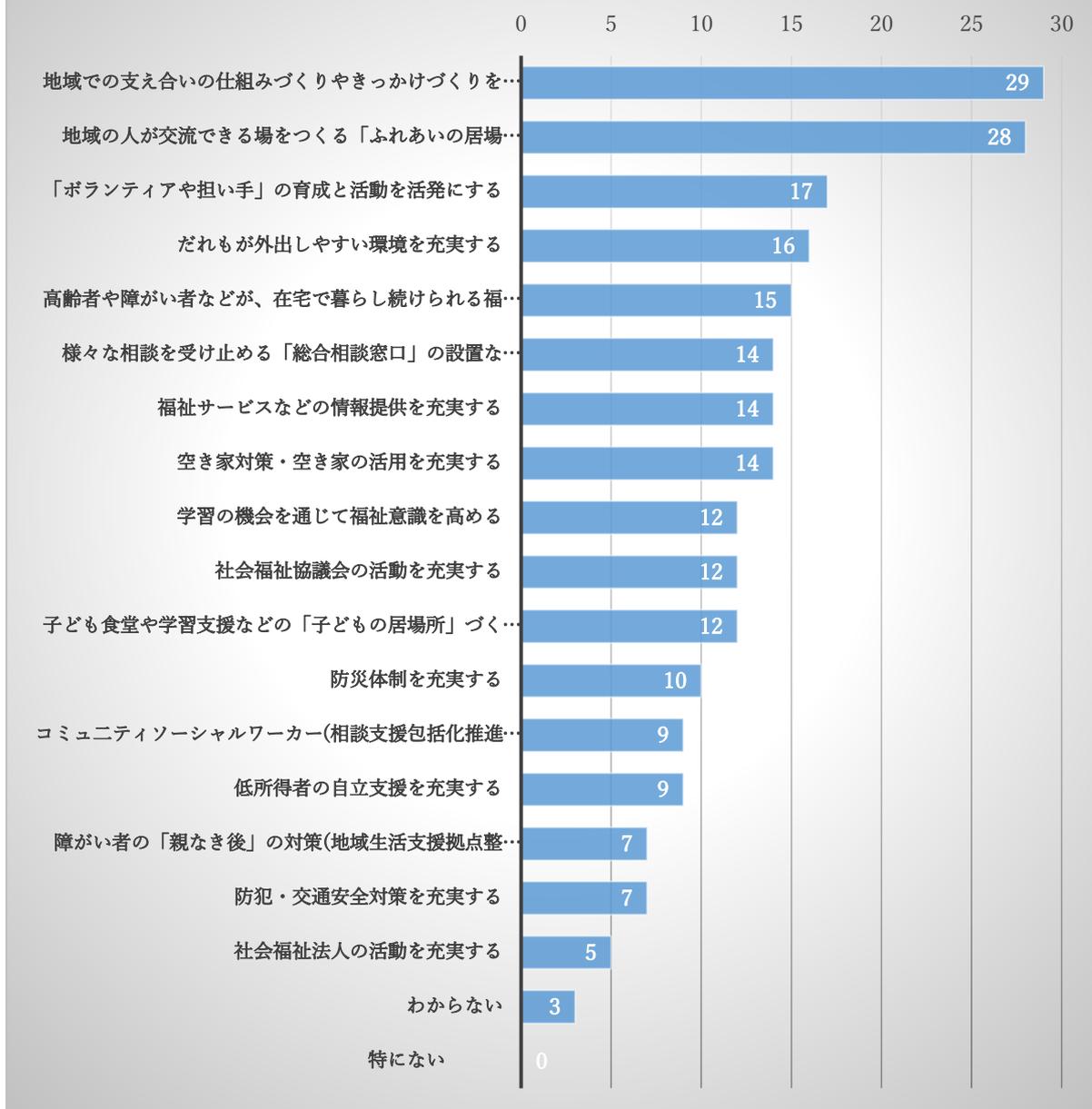


団体の活動を通じて感じる地域の問題点等については、世代間や、隣近所との交流が少ないということが一番の課題としてあげられている。

次に、災害時の避難と安否確認等、防災対策に不安があることがあげられた。この回答は、民生委員協議会からの回答が多くを占めていた。

また、地域で集まる場所の問題や、地域の活動が少ないことなどがあげられている。

問9 今後、地域福祉を推進していくために重要なことは何だと思えますか



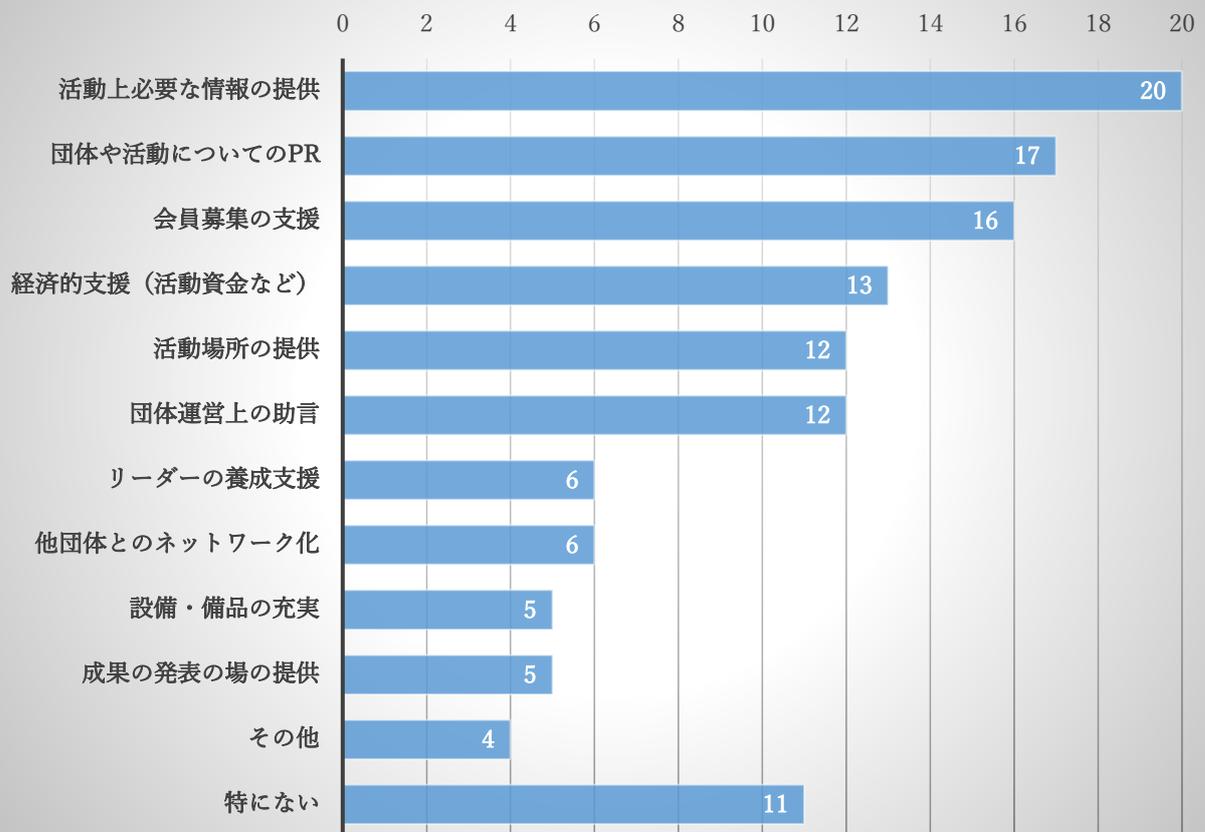
今後、地域福祉を推進していくために重要なことについては、

- ・地域での支え合いの仕組みづくりやきっかけづくりを充実する
- ・地域の人が交流できる場をつくる「ふれあいの居場所」をつくる

の2項目が、最も多くあげられたものであった。

次に、「ボランティアや担い手」の育成、外出しやすい環境の充実、在宅で暮らし続けられるサービスの充実、総合相談窓口の設置、などが多く回答された。

問10 桐生市や社協に望むことはどのようなことですか



桐生市や社協に望むこととしては、情報の提供、活動のPR、会員募集の支援などが多くあげられた。

まとめ

福祉団体の活動を維持し、活発にするためには、第一に会員の減少を防ぐ必要が急務である。会員の高齢化、新規会員不足、後継者不足など、どの団体も、人の不足が深刻な問題となっている。新規会員を集めるためには、各団体の情報発信が重要となるが、現在は、紙媒体や人を介しての発信が多く、インターネットを介しての情報発信が少ない。まずは若い世代向けに、情報を発信し活動をPRすることが必要である。情報発信方法については、インターネットを利用して発信が出来るよう支援が必要と考える。

また、地域との関係については、世代間や近所との交流が少ないことが課題としてあげられた。地域での支えあいのきっかけづくりのため、交流の場所をつくる必要がある。